

# 平成 26 年度 新発田市道徳部 活動報告

部長 加藤 聡史（東豊小）

## 1 研究主題

「生活に根ざした道徳授業の進め方」

## 2 研究の概要

新発田市学校教育の指針では、「豊かな心を育む教育の推進」を3本柱の1つとし、「共生」の心を育てる道徳教育の推進を目指している。その中で、「生命の尊厳や思いやりの心を大切にする高い倫理観の育成」と「道徳の公開授業や体験を共にする場の設定など地域ぐるみの道徳教育の推進」を掲げている。また、新発田市の特色ある教育として、「人間尊重の心を育てる人権教育、同和教育」がある。「同和教育の視点に立つ教育の実践（かかわる同和教育の実践）」「人のいたみが分かり、差別や偏見を許さない人権感覚を育てる教育の実践」を目指している。

この指針を受け、新発田市小学校教育研究会道徳部では、講演会と授業研究の2つの活動に重点を置くこととした。

講演会では、講演の内容と自分の実践を重ね合わせたり、自身の取組を振り返ったりしながら今後の道徳教育について自分なりに考え、授業実践に活かすこととした。

授業研究では、1単位時間内での教師の手立ての有効性について意見交換する中で、有効な手立てについて検討することとした。

これらの活動を通して、各校においてさらなる道徳教育の推進を図ることを目指した。

## 3 研究の実際

### (1) 講演会【平成 26 年 6 月 13 日(金) 15:30~16:30 参会者 21 名 東豊小にて】

佐渡市立金泉小学校の土田暢也校長先生から、『道徳の「教科化」と道徳授業について』という演題でご講演をいただいた。

今年2月に下村文科相が中央教育審議会総会において、「道徳の教科化」について諮問した。諮問するにあたり、「規範意識、自己肯定感、社会性、思いやりなど、豊かな人間性を育むための道徳教育が重要だ」としている。「いじめ防止対策推進法」においては、「児童生徒の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流の能力の素地を養うことがいじめ防止に資することを踏まえ、全ての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動等の充実を図らなければならない。」と規定された。

(土田校長先生のご指導より)

このように、道徳教育の重要性が増している中で、「道徳の教科化」を絶好の機会ととらえ、授業づくりの可能性を広げていかなければならないことを、土田校長先生からご指導いただいた。そして、「いじめ問題等にかかわる実践例」として、「恵子の心（自作資料）」や「シカト（学研）」など多くの資料を紹介していただいた。その中で、資料の分割提示や読み聞かせ、役割演技などの授業の組み立てだけでなく、子どもの心を揺さぶるような資料に出会わせることや自分を見つめさせることの大切さを教えていただいた。「明日からの授業で早速活かしたい。」「週一回の道徳授業を大切にしていきたい。」など、参会者からも大変好評であった。

### (2) 授業研究【平成 26 年 11 月 14 日(金) 14:00~16:30 参会者 14 名 加治川小にて】

講演会に引き続き、土田校長先生を指導者としてお招きし、加治川小学校の前田芙美子先生から提案授業をしていただいた。善悪の判断は身に付いているが、正しいと

分かっていながら実行できていない。悪いと分かっていながら周りの友だちに流されてしまう。これらの実態から「勝手に決めないで（日本標準）」を資料に用いて、「自分の経験を振り返り、正しいと思うことは勇気をもって行おうとする態度を育てる」ことをねらいとして授業を公開した。授業を行うにあたり、次の手立てを講じた。

#### ① 実態調査の結果の活用

事前に「正しいと思ったのに勇気が出せなかったこととその理由」についてのアンケートを用いて実態調査を行った。実態調査を活用して、本時では、主人公の心の葛藤と、自分の日常生活での勇気を出せなかった経験を重ね合わせた。そのために、実態調査の結果を板書で示しながら、主人公の気持ちに共感させた。



#### ② 資料の分割提示

資料を前半と後半に分けて提示し、主人公の気持ちや言動の変化を考えさせた。資料の前半部分である、校内放送で学級紹介をする人が和田さんに決まってしまうところまでを提示して、勇気を出して言いたかったけれど言えなかった主人公の気持ちを想像させ、なぜ勇気を出せなかったのかを考えさせた。

資料の後半部分では、主人公が勇気を出して言った言葉を考えさせ、その周りの友だちの気持ちを想像させた。

協議会では、板書・発問の是非等について活発な意見交換がなされた。「導入時だけでなく、展開でも実態調査の結果を意識させたことで、主人公と自分を重ね合わせ、当事者意識をもって考えることができていた。」と、手立てとした実態調査の活用の効果についての肯定的な意見が多く出された。

指導者の土田校長先生からは、資料中には「正義・勇気」「信頼・友情」「公正・公平」といった複数の道徳的価値が含まれているため、資料中の誰をどのように扱うのか、誰のどんな言動を問題にしていくのか、発問・指示をどのように構成していくのかなど、扱い方を整理する必要があるというご指導をいただいた。土田校長先生が、金泉小学校の4年生に対して同じ資料を用いて授業をされた記録を示しながらご指導して下さい、「大変分かりやすかった。」と参加者も大いに理解を深めていた。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 道徳の教科化を見据え、生活に根ざした道徳授業を進めていくために、どのような授業づくりをしていけばよいかについて、講演会でのご指導や資料をもとにして参加者一人一人が実際の授業を思い浮かべながら考えることができた。
- ・ 児童に当事者意識をもたせるために、事前に資料に関する実態調査をし、板書で示しながら考えさせることが有効であることが確認された。

### (2) 課題

- ・ 本資料には複数の道徳的価値があったことから、限られた時間の中で、発問・指示を精選するなど、授業のねらいである「正義・勇気」に焦点化する手立てが必要だった。
- ・ 自分の考えを書いて発表したり、役割演技で表現したりするなど、児童がじっくり内省するための時間を確保する必要がある。

今年度の活動(講演会・授業研究)内容を次年度に引き継ぎ、さらなる授業改善を図る。

